お知らせ

本誌『陽明学』は、十六号を以って市販（有料）という形を終えました。十七号以降は、『二松学舎大学東アジア学術総合研究所陽明学研究部』発行となり、研究所（研究部）の紀要となりました。

従いまして、それまでご購読いただきました読者の方々で、継続希望の方は研究所（研究部）まで文書でお申し込み下さい。

◎申込先

〒一〇二―八三三六

東京都千代田区三番町六―一六

二松学舎大学東アジア学術総合研究所

陽明学研究部

編集後記

『陽明学』は、本号で第二十号という区切りを向かえる。第一号の「山田方谷」からこれまで中国・日本の陽明学者を特集してきたが、一つの総括という意味もこめて未だ取り上げていなかった王陽明を特集することに決定したのが一昨年の編集会議でのことであった。そして、この度刊行の運びとなった本年二〇〇八年は、奇しくも王陽明没後四百八十年、龍場大悟から五百年という記念の年になった。少なからぬ縁を感ずる。

この二十号の為に、重厚な玉稿をお寄せくださった福田殖先生、本『陽明学』にさまざまなご助言をいただいている上に玉稿をお寄せくださった吉田公平先生、原稿依頼を快くお引き受けくださった鶴成久章先生、朱子学者の立場？から陽明学についても活発にご発言なさっておられる小島毅先生、そして韓国から陽明学の現代的役割を模索するという刺激的な玉稿をお寄せくださった金世貞先生、また今後の新たな二松學舎大学の陽明学研究のために、「陽明学研究所」の「来し方」をおまとめくださった松川健二先生、各先生方には心から感謝申し上げたい。

また、実心実学の立場から見た王陽明思想について考察された本学大学院の小川晴久教授、地道な資料調査の成果をお寄せいただいた町泉寿郎東アジア学術総合研究所専任講師、連載の宋明資料輪読会の研究報告をまとめてくださった渡邊賢先生をはじめとする諸先生方にも感謝の意を表したい。

『陽明学』は、次号第二十一号からリニューアルして出発すべく鋭意検討中である。今後ともご支援を賜れば幸いである。

（田中）